書 評・紹 介

王建民・胡琪著

『中国流動人口』

上海財経大学出版社，1996年5月，331頁

本書は，中国の人口問題において一人っ子政策という数量の抑制問題以上に近年大きな課題となりつつある流動人口問題について全中国的視点で整理した専門概説書である。

これまでにも上海市の流動人口については，1）上海市公安局戸政処編『1949－1984上海市人口資料匯編』1984年．2）張開敏編『上海流動人口』1989年．3）『90年代上海流動人口』1995年など先駆的著作もある．しかし全中国の1990年代についての総括的流動人口論としては，注目すべき書といえるであろう．

目次は以下の13章からなる．

1）流動人口の概論
2）流動人口の発展と歴史
3）流動人口の調査と統計
4）流動人口の構成
5）流動人口と都市労働力市場
6）流動人口と計画出産
7）流動人口と都市建設
8）流動人口と市場経営管理
9）流動人口と消費と都市商業・サービス業
10）流動人口と社会治安
11）流動人口と戸籍制度
12）その他主要類型の流動人口
13）流動人口の発展戦略と管理対策

内容の特色としては，1）中国の明清時代にも歴史をさかのぼり，2）近年の上海市藍印（青色）戸籍制度にも言及，3）小城鎮の流動人口にも目くばりをしつつ，4）移動人口の数量的把握，流動要因，農村側の労働力，移動者の性・年齢別などの属性など，1990年人口センサス以外にも可能な限りのデータを駆使している．末尾の文献整理も大変役に立つ．中国人口研究を進める上での必読文献といえよう．

著者の王建民は，上海人口学会々長であり党委党校校長という要職にある．一人っ子政策へと大転換する前の1977年頃からいちはやくひそかに人口研究を始めたパイオニアである．そして，現代化へのきりかえ時の先頭にたって政策転換上の主要論文を発表してきた上海人口研究の重鎮である．

広大な国土にあって中国は上海から変わるとよくいわれるように，いちはやく60年代から計画出産活動が始められてきたこと．かつ，1979年の一人っ子政策の具体的骨格をつくりだしたのも「上海市計画出産条例」が最先端であった．同時に人口高齢化の進展も全中国の中でとびぬけて速い．

こうした結果から，自然増加率は市民で1991年より，上海全市で1993年よりマイナスと化している．これらのことを総合して，王建民らは一人っ子どうしの結婚，カップルは第2子出産を許可するというように，そろそろ“一人っ子政策の軌道修正”を専門家内では検討しはじめている様子である．

しかしながら上海での政策変更は必ずや全国への影響力の波及を考えるならば，そう容易にはいかないというのが簡単に緩和にふみきれない要因となっている．それだけ中国の国土は広く，地域格差，差別出生率が大きく，なお農村における計画出産活動が困難であることを示しているともいえるであろう．

もともと一人っ子政策は，1979年の出発当初から「21世紀初め」あるいは「今世紀末」の段階までの暫時的政策であり，その段階で軌道修正するといい続けている中国において，今後どのように〝軌道修正〟していくかが難題となるであろう．上海はすでにそのぎりぎりの段階にきているともいえようが，この人口動態数字には流動人口の出生率などは含まれていないことも注意しなくてはならない。

なお王建民は，1996年10月18日，19日の厚生省人口問題研究所の地球環境プロジェクトの国際会議に初来日し興味深い発表を行ってくれた．

（若林敬子）